



委 託 契 約 書

収 入
印 紙

- 1 委託名 水道料金等コンビニエンスストア・モバイル決済収納事務（単価契約）
- 2 履行場所 日本国内
- 3 履行準備期間 契約の日から令和8年11月30日まで
- 4 履行期間 令和8年12月1日から令和13年3月31日まで
- 5 契約単価 円（受託1件当たり）（消費税及び地方消費税相当額を除く。）
- 6 契約保証金
この契約に係る契約保証の種類は、下記のうち ① とする。
①契約保証金の納付 ②銀行等の金融機関の保証 ③履行保証保険による保証 ④免除

上記の委託について、発注者と受注者は、各々の対等な立場における合意に基づいて、次の条項により、契約を締結し、信義に従って、誠実にこれを履行する。

本契約の締結を証するため本書2通を作成し、当事者記名押印の上、各自1通を保有する。

令和 年 月 日

発注者 岡山市北区鹿田町二丁目1番1号
岡山市水道局
岡山市水道事業管理者
水道局長

栗 原 諭 ⑩

受注者 住 所
商号又は名称
代表者職氏名

⑩

(総則)

第1条 発注者及び受注者は、この契約書に基づき、仕様書等（仕様書及びこれに対する質問回答書をいう。以下同じ。）に従い、日本国の法令、岡山市水道局契約規程（平成2年市水道局管理規程第13号）、岡山市水道局水道料金等の指定納付受託者による納付に関する規程（令和7年市水道局管理規程第26号）その他法令を遵守し、この契約（この契約書及び仕様書等を内容とする業務の委託契約をいう。以下同じ。）を履行しなければならない。

2 この契約書に定める催告、申請、請求、通知、報告、承諾及び解除は、書面により行わなければならない。

3 この契約の履行に関して発注者と受注者との間で用いる言語は、日本語とする。

4 この契約書に定める金銭の支払いに用いる通貨は、日本円とする。

5 この契約の履行に関して発注者と受注者との間で用いる計量単位は、仕様書等に特別の定めがある場合を除き、計量法（平成4年法律第51号）に定めるものとする。

6 この契約書及び仕様書等における期間の定めについては、民法（明治29年法律第89号）及び商法（明治32年法律第48号）の定めるところによるものとする。

7 この契約に係る訴訟については、岡山地方裁判所をもって合意による専属的管轄裁判所とする。

(契約保証)

第2条 受注者は、この契約の締結と同時に、次の各号に掲げる保証のうちいずれか一の保証を付さなければならない。ただし、第3号の場合においては、履行保証保険契約の締結後、直ちにその保険証券を発注者に寄託しなければならない。

(1) 契約保証金の納付

(2) この契約による債務の不履行により生ずる損害の支払を保証する銀行又は発注者が確実と認める金融機関の保証

(3) この契約による債務の不履行により生ずる損害をてん補する履行保証保険契約の締結

2 前項の保証に係る契約保証金の額、保証金額又は保険金額(第5項において「保証の額」という。)は、手数料額の100分の10以上としなければならない。

3 受注者が第1項第2号又は第3号に掲げる保証を付す場合は、当該保証は第43条第3項各号に規定する者による契約の解除の場合についても保証するものでなければならない。

4 第1項の規定により、受注者が同項第2号に掲げる保証を付したときは、当該保証は契約保証金に代わる担保の提供として行われたものとし、同項第3号に掲げる保証を付したときは、契約保証金の納付を免除する。

5 手数料額に1割を超える増減額変更があった場合には、保証の額が変更後の手数料額の10分の1に達するまで、発注者は、保証の額の増額を請求することができ、受注者は、保証の額の減額を請求することができる。

(契約保証金の返還)

第3条 発注者は、契約履行の完了確認後又は第34条、第36条第6号、第8号若しくは第11号、第38条若しくは第39条の規定により契約が解除された場合に契約保証金を返還するものとする。

(権利義務の譲渡等の禁止)

第4条 受注者は、この契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、若しくは承継させ、又はその権利を担保の目的に供してはならない。ただし、発注者の承認を得たときは、この限りでない。

(一括委任又は一括下請負の禁止)

第5条 受注者は、委託の全部又は大部分を一括して第三者に委任し、又は請け負わせてはならない。

(一部委任又は下請負の通知)

第6条 受注者は、委託の一部を委任し、又は下請負するときは、相手方の名称その他発注者が必要と認める事項をあらかじめ発注者に対して通知しなければならない。

2 受注者は、委託の一部を委任し、又は下請負するときは、受注者がこの契約を遵守するために必要な事項について、相手方と約定しなければならず、かつ、相手方の行為について全ての責任を負うものとする。

(指名停止期間中の者等の下請負等の禁止)

第7条 受注者は、委託の全部又は一部を発注者から指名停止を受けている者又は指名停止を理由として有資格者名簿から削除された者で当該指名停止期間が満了していない者に委任し、又は請け負

わせてはならない。

(委託業務の着手)

第8条 受注者は、仕様書等に定めのある場合を除くほか、特別の事情がない限り契約締結日後速やかに委託に着手し、継続して以後の作業を行わなければならない。

2 受注者は、委託に着手したときは、所定の様式による着手届を発注者に提出しなければならない。

(監督)

第9条 発注者は、委託の施行について、受注者又は次条に基づく業務責任者を指示し、又は監督するものとする。

2 発注者は、前項に規定する指示又は監督を関係職員（以下「監督員」という。）に行わせることができる。

3 監督員は、委託の的確な履行を確保するため、岡山市水道局契約規程の規定により処理すべきもののほか、契約書及び仕様書等で定められた事項の範囲内において、次に掲げる職務を行うものとする。

(1) 契約の履行についての受注者又は業務責任者に対する指示、承諾又は協議

(2) 仕様書等に基づく委託の施行のための詳細図等の作成及び交付又は受注者が作成した詳細図等の承諾

(3) 仕様書等に基づく工程の管理、立会い、委託の施行の状況の把握及び点検又は委託材料の試験若しくは検査

(4) その他委託の施行上必要な事項

4 発注者は、第2項の規定により監督員をおいたときは、当該監督員の職名及び氏名を受注者に通知しなければならない。監督員を変更したときも、同様とする。

(業務責任者)

第10条 受注者は、業務を実施するに当たって業務責任者を定め、その氏名その他必要な事項を発注者に報告しなければならない。業務責任者を変更したときも同様とする。

2 業務責任者は、契約の履行に関し、その運営、取締り等を行うほか、契約に基づく受注者の一切の権限（契約単価、予定数量又は委託期間の変更、手数料の請求及び受領、契約の解除に係るもの等を除く。）を行使することができる。

3 受注者は、前項の規定にかかわらず、自己の有する権限のうちこれを業務責任者に委任せず自ら行使しようとするものがあるときは、あらかじめ、当該権限の内容を発注者に通知しなければならない。

(委託関係者に関する措置請求)

第11条 発注者は、業務責任者、使用人又は作業員のうち監督員の職務執行を妨げ、又はその指示に従わず、若しくは委託の施行等について著しく不相当と認められる者があるときは、その理由を明示した書面により、受注者に対して必要な措置をとるべきことを請求することができる。

(委託期間の延長)

第12条 受注者は、天災その他正当な事由により委託期間内にその義務を履行できないときは、その理由を書面により明らかにし、委託期間の延長を発注者に申請することができる。

2 発注者は、前項に規定する申請があった場合は、その事実を審査し、正当な理由があると認めるときは、受注者と協議して委託期間の延長日数を定めるものとする。

(履行遅滞の場合における損害金等)

第13条 発注者は、前条の場合を除くほか、受注者が委託期間内に義務を履行できないため委託期間の延長を申請した場合において、申請委託期間内に履行できる見込みがあるときは、委託期間の延長を承認することができる。

2 発注者は、前項の規定により委託期間の延長を承認したときは、手数料額につき遅延日数に応じ、政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）第8条第1項の財務大臣が決定する率（以下、「支払遅延に対する遅延利息の率」という。）の割合で計算した額を遅延損害金として徴収することができる。

3 前項の場合において、委託期間内に契約の一部を履行したときは、これに相当する金額を手数料額から控除して得た金額を手数料額とみなし計算する。ただし、控除すべき金額を計算できない場合は、この限りでない。

4 第2項の遅延損害金は、指定期限内に納付するものとし、納付しないときは手数料額からこれを控

除することができる。

- 5 第2項の遅延損害金の徴収に係る日数計算については、検査に要した日数はこれを算入しない。完了に伴う検査の結果、不合格となった場合における取り替え、改造又は修補に要する第1回の指定日数についても、また同様とする。

(契約単価の変更)

第14条 契約締結後において物価、賃金等の変動を理由として、契約単価の変更をすることはできない。ただし、経済情勢の著しい変化その他予期することのできない特別の事情により物価及び賃金に著しい変動を生じ、契約単価が著しく不適当となったときは、その実情に応じて、発注者は、受注者と協議の上、手数料額を変更することができる。

(契約の変更)

第15条 この契約を変更するときは、変更契約書を作成の上、発注者、受注者双方記名押印しなければならない。ただし、契約変更の内容が軽微なもので、その必要がないと認めるものについては、この限りでない。

(一般的損害)

第16条 この契約の完了前に生じた損害その他契約の履行に関して生じた損害（次条又は第18条に規定する損害を除く。）は、発注者の責めに帰する場合を除き、すべて受注者が負担しなければならない。

(第三者に及ぼした損害)

第17条 受注者は、この契約の履行に関して第三者に損害を及ぼしたときは、発注者の責めに帰する場合を除き、その損害を賠償しなければならない。

(天災等による損害)

第18条 天災その他不可抗力により、委託の既済部分等に損害を生じたときは、発注者は、受注者と協議してその損害額の一部を負担することができる。ただし、受注者が善良な管理者の注意を怠ったと認められるときは、この限りでない。

- 2 前項の場合において、火災保険その他損害を補てんするものがあるときは、これらの額を損害額から控除したものを同項の損害額とする。

(仕様書等不適合の場合の修補義務等)

第19条 受注者は、委託の施行が仕様書等に適合しない場合において、監督員がその修補を請求したときは、これに従わなければならない。この場合において、当該不適合が監督員の指示による等発注者の責めに帰すべき理由によるもので必要があると認めるときは、発注者は、受注者と協議して委託期間、契約単価若しくは予定数量を変更し、又は必要な費用等を負担するものとする。

(委託の変更、中止等)

第20条 発注者は、必要があると認めるときは、受注者に通知し、委託内容を変更し、又は委託の全部若しくは一部の施行を一時中止させることができる。この場合において、発注者は、必要があると認めるときは、次項及び第3項に定めるところにより、委託期間、契約単価若しくは予定数量を変更し、又は必要な費用等を負担するものとする。

- 2 委託期間、契約単価又は予定数量の変更は、発注者及び受注者が協議して定めるものとする。

- 3 発注者は、第1項の場合において、受注者が委託の続行に備え委託現場を維持し、若しくは労働者、機械器具等を保持するための費用その他の委託の施行の一時中止に伴う増加費用を必要とし、又は受注者に損害を及ぼしたときは、その増加費用を負担し、又はその損害を賠償しなければならない。この場合において、負担額又は賠償額は、受注者と協議して定めるものとする。

- 4 発注者は、天災その他の不可抗力により、受注者が委託を施行できないと認めるときは、第1項の規定により、委託の全部又は一部の施行を中止させるものとする。

(条件変更等)

第21条 受注者は、委託の施行に当たり、次の各号のいずれかに該当する事実を発見したときは、直ちにその旨を監督員に通知し、その確認を求めなければならない。

- (1) 仕様書及び質問回答書が一致しないこと（これらの優先順位が定められている場合を除く。）。
- (2) 仕様書等に誤り又は脱漏があること。
- (3) 仕様書等の表示が明確でないこと。
- (4) 現場の形状、施行上の制約等仕様書等に表示された自然的又は人為的な施行条件と実際の委託現

場が一致しないこと。

(5) 仕様書等で明示されていない施行条件について予期することのできない特別な状態が生じたこと。

2 監督員は、前項の確認を求められたとき、又は自ら前項に掲げる事実を発見したときは、直ちに調査を行い、その結果（これに対して取るべき措置を指示する必要があるときは、当該指示を含む。）を受注者に通知しなければならない。

3 第1項の事実が発注者及び受注者の間において確認された場合において、必要があると認められるときは、次に定めるところにより、仕様書等の訂正又は変更を行わなければならない。

(1) 第1項第4号又は第5号に該当し、仕様書等を変更する場合は、発注者及び受注者が協議して発注者が行うものとする。

(2) 第1項第1号から第3号までに該当し、仕様書等を訂正する必要があるものは、発注者が行うものとする。

4 前項の場合において、発注者は、必要があると認めるときは、受注者と協議して委託期間若しくは手数料額を変更し、又は受注者に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担するものとする。

(委託期間の短縮等)

第22条 発注者は、特別の理由により委託期間を短縮する必要があるときは、受注者に対して委託期間の短縮を請求することができる。この場合において、短縮日数は、受注者と協議して定めるものとする。

2 前項の場合において、発注者は、必要があると認めるときは、受注者と協議して、契約単価又は予定数量を変更し、又は受注者に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担するものとする。

(臨機の措置)

第23条 受注者は、災害防止等のため必要があると認めるときは、臨機の措置をとらなければならない。この場合において、必要があると認めるときは、受注者は、あらかじめ監督員の意見を聴かななければならない。ただし、緊急やむを得ない事情があるときは、この限りでない。

2 前項の場合において、受注者は、そのとった措置の内容を遅滞なく監督員に通知しなければならない。

3 監督員は、災害防止その他委託の施行上特に必要があると認めるときは、受注者に対して臨機の措置をとることを求めることができる。

4 発注者は、受注者が第1項又は前項の規定により臨機の措置をとった場合において、当該措置に要した費用のうち、予定総金額の範囲内において負担することが適当でないと認める部分については、これを負担するものとする。この場合において、負担額は、受注者と協議して定めるものとする。

(契約単価等の変更に代える仕様書等の変更)

第24条 発注者は、第14条、第16条又は第18条から前条までの規定により契約単価又は予定数量を変更すべき場合（費用を負担すべき場合を含む。）において、特別の理由があるときは、契約単価又は予定数量の変更に代えて、又は変更とともに仕様書等を変更することができる。この場合において、仕様書等の変更内容は、受注者と協議して定めるものとする。

(委託の完了)

第25条 受注者は、1月毎の委託が完了したときは、速やかに所定の様式の完了通知書及び業務報告書を、発注者の指示する場所において、発注者に提出しなければならない。

2 発注者は、前項の規定により完了通知書の提出を受けたときは、監督員に委託の完了を確認させ、速やかに検査の手続をとるものとする。

(検査)

第26条 発注者は、完了通知書を受領した日から起算して10日以内に検査をしなければならない。

2 発注者は、あらかじめ仕様書等に検査を行うことを定めた場合において必要があると認めたときは、中間検査をすることができる。

3 発注者は、前2項に規定するもののほか、必要があると認めるときは、随時に検査をすることができる。

(検査の委任)

第27条 発注者は、前条の検査を委任する職員（以下「検査員」という。）に行わせることができる。

ただし、必要があると認めるときは、検査員以外の者に検査を委嘱することができる。

(検査の方法)

第28条 検査員は、あらかじめ検査の日時を受注者に通知し、受注者又は業務責任者（以下本条において「受注者等」という。）の立会いの上、検査を行うものとする。ただし、受注者等の立会いが得られないときは、受注者等の立会いなしで検査を行うことができるものとする。

2 前項の検査は、契約書、仕様書等その他の関係書類と対比してその結果を公正に判定しなければならない。

(修補)

第29条 受注者は、委託が第26条第1項に規定する検査に合格しなかったときは、指定期間内にこれを修補しなければならない。

2 受注者は、前項の修補を完了したときは、直ちに、所定の様式による修補完了届を発注者に提出し、再検査を受けなければならない。

3 前3条の規定は、前項の場合にこれを準用する。

(検査の経費)

第30条 検査に要した費用は、契約に特別の定めのある場合のほか、すべて受注者の負担とする。修補、原状回復又は検査のための変質、変形、消耗若しくはき損の修繕等に要する費用についても、また同様とする。

(所有権の移転)

第31条 削除

(手数料の支払)

第32条 受注者は、第26条第1項の検査に合格したときは、手数料の支払を発注者に請求することができる。

2 発注者は、前項の規定による請求があったときは、請求を受けた日から30日以内に手数料を支払わなければならない。

(契約不適合責任)

第33条 発注者は、業務の施行が種類又は品質に関して契約の内容に適合しないもの（以下「契約不適合」という。）であるときは、受注者に対し、業務の施行による履行の追完を請求することができる。ただし、その履行の追完に過分の費用を要するときは、発注者は履行の追完を請求することができない。

2 前項の場合において、受注者は、発注者に不相当な負担を課するものでないときは、発注者が請求した方法と異なる方法による履行の追完をすることができる。

3 第1項の場合において、発注者が相当の期間を定めて履行の追完の催告をし、その期間内に履行の追完がないときは、発注者は、その不適合の程度に応じて手数料の減額を請求することができる。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、催告をすることなく、直ちに手数料の減額を請求することができる。

(1) 履行の追完が不能であるとき。

(2) 受注者が履行の追完を拒絶する意思を明確に表示したとき。

(3) 業務の性質又は当事者の意思表示により、特定の日時又は一定の期間内に履行しなければ契約をした目的を達することができない場合において、受注者が履行の追完をしないでその時期を経過したとき。

(4) 前3号に掲げる場合のほか、発注者がこの項の規定による催告をしても履行の追完を受ける見込みがないことが明らかであるとき。

(発注者の任意解除権)

第34条 発注者は、業務が完了するまでの間は、次条又は第36条の規定によるほか、必要があるときは、この契約を解除することができる。

2 発注者は、前項の規定によりこの契約を解除した場合において、受注者に損害を及ぼしたときは、その損害を賠償しなければならない。

(発注者の催告による解除権)

第35条 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは相当の期間を定めてその履行の催告をし、その期間内に履行がないときはこの契約を解除することができる。ただし、その期間を

経過した時における債務の不履行がこの契約及び取引上の社会通念に照らして軽微であるときは、この限りでない。

- (1) 委託期間内に契約の履行をしないとき、又はその履行の見込みがないとき。
 - (2) 契約の履行に当たり発注者の担当職員の指揮監督に従わないとき、又はその職務の執行を妨害し、契約の目的が達せられないとき。
 - (3) 正当な理由なく、第33条第1項の履行の追完がなされないとき。
 - (4) 前各号のほか、法令、岡山市水道局契約規程又はこの契約に違反したとき。
- (発注者の催告によらない解除権)

第36条 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、直ちにこの契約を解除することができる。

- (1) この契約の全部を履行することができないことが明らかであるとき。
- (2) 受注者がこの契約の債務の全部の履行を拒絶する意思を明確に表示したとき。
- (3) 受注者の債務の一部の履行が不能である場合又は受注者がその債務の一部の履行を拒絶する意思を明確に表示した場合において、残存する部分のみでは契約をした目的を達することができないとき。
- (4) 契約の性質や当事者の意思表示により、特定の日時又は一定の期間内に履行しなければ契約をした目的を達することができない場合において、受注者が履行をしないでその時期を経過したとき。
- (5) 前各号に掲げる場合のほか、受注者がその債務の履行をせず、発注者が前条の催告をしても契約をした目的を達するのに足りる履行がされる見込みがないことが明らかであるとき。
- (6) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下この条において同じ。）又は暴力団員（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下この条において同じ。）が経営に実質的に関与していると認められる者に手数料債権を譲渡したとき。
- (7) 第38条又は第39条の規定によらないでこの契約の解除を申し出たとき。
- (8) 受注者（受注者が共同企業体であるときは、その構成員のいずれかの者。以下この号において同じ。）が次のいずれかに該当するとき。

ア 役員等（受注者が個人である場合にはその者を、受注者が法人である場合にはその役員又は支店若しくは常時建設コンサルタント業務等の契約を締結する事務所の代表者をいう。以下この号において同じ。）が暴力団員であると認められるとき。

イ 暴力団又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められるとき。

ウ 役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を与える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。

エ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。

オ 役員等が暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

カ 暴力団関係法人等であることを知りながらこれを不当に利用するなどしていると認められるとき。

キ 再委託契約その他の契約に当たり、その相手方がアからカまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。

ク 受注者が、アからカまでのいずれかに該当する者を再委託契約その他の契約の相手方としていた場合（キに該当する場合を除く。）に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。

ケ 入札、随意契約のための見積り及び契約の履行に際し、暴力団関係者から不当な介入を受けたにもかかわらず、遅滞なくその旨を発注機関に届け出なかったとき。

(9) 契約の締結又は履行に当たって不正の行為があったとき。

(10) 契約の相手方としての資格を欠くこととなったとき。

(11) 発注者から岡山市水道局指名停止基準（市水道局訓令第12号）別表第7項第1号ア、同項第2号ア、第8項第1号又は第9項のいずれかに該当することを理由として指名停止されたとき。

(発注者の責めに帰すべき事由による場合の解除の制限)

第37条 第35条各号又は前条各号に定める場合が発注者の責めに帰すべき事由によるものであるときは、発注者は、前2条の規定による契約の解除をすることができない。

(受注者の催告による解除権)

第38条 受注者は、発注者がこの契約に違反したときは、相当の期間を定めてその履行の催告をし、その期間内に履行がないときは、この契約を解除することができる。ただし、その期間を経過した時における債務の不履行がこの契約及び取引上の社会通念に照らして軽微であるときは、この限りでない。

(受注者の催告によらない解除権)

第39条 受注者は、次の各号のいずれかに該当するときは、直ちにこの契約を解除することができる。

(1) 契約の内容を変更したため、予定総金額が3分の1以下に減少したとき。

(2) 契約の履行の中止期間が委託期間の2分の1を超えたとき。

(受注者の責めに帰すべき事由による場合の解除の制限)

第40条 第38条又は前条各号に定める場合が受注者の責めに帰すべき事由によるものであるときは、受注者は、前2条の規定による契約の解除をすることができない。

(契約解除等の通知)

第41条 契約の解除等の通知をするときは、書面により遅滞なく行わなければならない。

(契約解除に伴う措置)

第42条 発注者は、契約が委託完了前に解除された場合において、必要があると認めるときは、既済部分を検査の上、これに相当する手数料を受注者に支払わなければならない。ただし、違約金等を徴収するときは、支払金はこれと差し引き清算することができる。

2 前項に規定する措置の期限、方法等については、契約の解除が第35条、第36条又は次条第3項の規定によるときは発注者が定め、第34条、第38条又は第39条の規定によるときは発注者及び受注者が協議して定めるものとする。この場合において、発注者は、受注者の協議及び立会い等が得られないときは、相当と認める関係人をもってこれに代えることができる。

3 委託完了後にこの契約が解除された場合は、解除に伴い生じる事項の処理については発注者及び受注者が民法の規定に従って協議して決める。

(発注者の損害賠償請求等)

第43条 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、これによって生じた損害の賠償を請求することができる。

(1) 委託期間内に業務を完了することができないとき。

(2) 業務の施行に契約不適合があるとき。

(3) 第35条又は第36条の規定により、業務完了後にこの契約が解除されたとき。

(4) 前3号に掲げる場合のほか、債務の本旨に従った履行をしないとき又は債務の履行が不能であるとき。

2 次の各号のいずれかに該当するときは、前項の損害賠償に代えて、受注者は、予定総金額の10分の10に相当する額を違約金として発注者の指定する期間内に支払わなければならない。ただし、発注者が違約金を徴収する必要がないと認めたときは、この限りでない。

(1) 第35条又は第36条(第11号を除く。)の規定により業務完了前にこの契約が解除されたとき。

(2) 業務完了前に、受注者がその債務の履行を拒否し、又は受注者の責めに帰すべき事由によって受注者の債務について履行不能となったとき。

3 次の各号に掲げる者がこの契約を解除した場合は、前項第2号に該当する場合とみなす。

(1) 受注者について破産手続開始の決定があった場合において、破産法(平成16年法律第75号)の規定により選任された破産管財人

(2) 受注者について更生手続開始の決定があった場合において、会社更生法(平成14年法律第154号)の規定により選任された管財人

(3) 受注者について再生手続開始の決定があった場合において、民事再生法(平成11年法律第225号)の規定により選任された再生債務者等

4 第1項各号又は第2項各号に定める場合(前項の規定により第2項第2号に該当する場合とみなされる場合を除く。)がこの契約及び取引上の社会通念に照らして受注者の責めに帰することができない事由によるものであるときは、第1項及び第2項の規定は適用しない。

5 第1項第1号に該当し、発注者が損害の賠償を請求する場合の請求額は、予定総金額から既成部分に相応する手数料を控除した額につき、遅延日数に応じ、支払遅延に対する遅延利息の率の割合で計算した額を請求することができるものとする。

6 発注者は、第2項の規定により支払われた金額が契約解除により発注者に与えた損害を補てんすることができないときは、その不足額に相当する金額を受注者から徴収することができる。

7 第2項の場合（第36条第6号及び第8号の規定により、この契約が解除された場合を除く。）において、第2条の規定により契約保証金の納付又はこれに代わる担保の提供が行われているときは、発注者は、当該契約保証金又は担保をもって同項の違約金に充当することができる。

（受注者の損害賠償請求等）

第44条 受注者は、発注者が次の各号のいずれかに該当する場合はこれによって生じた損害の賠償を請求することができる。ただし、当該各号に定める場合がこの契約及び取引上の社会通念に照らして発注者の責めに帰することができない事由によるものであるときは、この限りでない。

（1）第38条又は第39条の規定によりこの契約が解除されたとき。

（2）前号に掲げる場合のほか、債務の本旨に従った履行をしないとき又は債務の履行が不能であるとき。

2 第32条第2項の規定による手数料の支払いが遅れた場合においては、受注者は、未受領金額につき、遅延日数に応じ、支払遅延に対する遅延利息の率の割合で計算した額の遅延利息の支払いを発注者に請求することができる。

（契約不適合責任期間等）

第45条 発注者は、第26条の規定による検査に合格した日から1年以内でなければ、契約不適合を理由とした履行の追完の請求、損害賠償の請求、手数料の減額の請求又は契約の解除（以下この条において「請求等」という。）をすることができない。

2 前項の請求等は、具体的な契約不適合の内容、請求する損害額の算定の根拠等当該請求等の根拠を示して、受注者の契約不適合責任を問う意思を明確に告げることで行う。

3 発注者が第1項に規定する契約不適合に係る請求等が可能な期間（以下この項及び第6項において「契約不適合責任期間」という。）の内に契約不適合を知り、その旨を受注者に通知した場合において、発注者が通知から1年が経過する日までに前項に規定する方法による請求等をしたときは、契約不適合責任期間の内に請求等をしたものとみなす。

4 発注者は、第1項の請求等を行ったときは、当該請求等の根拠となる契約不適合に関し、民法の消滅時効の範囲で、当該請求等以外に必要と認められる請求等を行うことができる。

5 前各項の規定は、契約不適合が受注者の故意又は重過失により生じたものであるときには適用せず、契約不適合に関する受注者の責任については、民法の定めるところによる。

6 民法第637条第1項の規定は、契約不適合責任期間については適用しない。

7 発注者は、業務完了時に契約不適合があることを知ったときは、第1項の規定にかかわらず、その旨を直ちに受注者に通知しなければ、当該契約不適合に関する請求等を行うことはできない。ただし、受注者がその契約不適合があることを知っていたときは、この限りでない。

8 業務の施行の契約不適合が発注者の指示により生じたものであるときは、発注者は当該契約不適合を理由として、請求等を行うことができない。ただし、受注者がその指示が不相当であることを知りながらこれを通知しなかったときは、この限りでない。

（談合その他の不正行為の場合における賠償金）

第46条 受注者は、この契約に関して次の各号のいずれかに該当するときは、発注者に対し、この契約及びこの契約に係る変更契約による契約金額（単価契約の場合は、支払金額）の100分の20に相当する額を発注者が指定する期間内に損害賠償金として支払わなければならない。当該契約が完了した後においても、同様とする。

（1）公正取引委員会が、受注者に私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第7条第1項若しくは第2項（第8条の2第2項及び第20条第2項において準用する場合を含む。）、第8条の2第1項若しくは第3項、第17条の2又は第20条第1項の規定による措置を命じ、当該措置命令が確定したとき。

（2）公正取引委員会が、受注者に違反行為があったとして独占禁止法第7条の2第1項（第8条の3において読み替えて準用する場合を含む。）又は第7条の9第1項の規定による課徴金の納付を命

じ、当該課徴金納付命令が確定したとき。

(3) 受注者が、独占禁止法第77条の規定により提起した抗告訴訟において訴えを却下し、又は棄却する判決が確定したとき。

(4) 受注者（受注者が法人の場合にあつては、その代表者又は役員、代理人、使用人その他の従業者）に対し、刑法（明治40年法律第45号）第96条の6若しくは第198条又は独占禁止法第89条の規定による刑が確定したとき。

2 前項の規定は、談合により生じた損害の額が同項に規定する損害賠償金の額を超える場合において、その超過分につき発注者が受注者に賠償請求することを妨げるものではない。

3 受注者が第1項の規定に基づく損害賠償金を発注者が指定する期間内に支払わないときは、発注者はその支払わない額に当該指定する期間を経過した日から支払いをする日までの期間について、その日数に応じ、支払遅延に対する遅延利息の率の割合で計算した額の遅延利息を受注者から徴収するものとする。

4 第1項の規定に該当する場合においては、発注者は契約を解除することができる。

（紛争の解決）

第47条 発注者及び受注者は、契約に関し、双方の間に紛争が生じたときは、第三者のあつせん又は調停によりその解決を図るものとする。ただし、発注者及び受注者の一方又は双方があつせん又は調停により紛争を解決する見込みがないと認めたときは、この限りでない。

2 発注者及び受注者は、特別に定めたものを除き、紛争の処理に要する費用を各自負担する。

（秘密の保持）

第48条 受注者は、この契約履行上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。なお、当該秘密情報については、発注者、受注者協議の上、別途書面により規定するものとする。

2 受注者は、発注者の秘密情報を含む目的物を他人に閲覧させ、書写させ、又は譲渡してはならない。ただし、発注者の承認を得たときはこの限りではない。

3 受注者は、受託情報を保護するため、発注者と個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）に基づく「水道局の保有する個人情報の取扱委託に関する覚書」を締結しなければならない。

4 受注者は、発注者の秘密情報について、委託業務の履行期間中のほか当該業務完了後においても守秘義務を負う。

5 受注者が委託の一部を委任し又は下請負するときは、前4項の規定は当該委任又は下請負の相手方にも適用する。

（岡山市水道局情報セキュリティポリシーの遵守）

第49条 受注者は、委託業務の履行に当たり、岡山市水道局情報セキュリティポリシーを遵守しなければならない。

（補則）

第50条 この契約に定めのない事項又はこの契約に疑義の生じたときは、発注者、受注者協議して定めるものとする。

水道局の保有する個人情報の取扱委託に関する覚書

岡山市水道局（以下「発注者」という。）と（以下「受注者」という。）は、令和 年 月 日付けで締結した水道料金等コンビニエンスストア・モバイル決裁収納事務（単価契約）に係る委託契約（以下「契約」という。）に基づいて取り扱う、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号。以下「法」という。）第2条第1項に規定する個人情報であって発注者が保有するもの（以下「保有個人情報」という。）を適正に管理し、もって個人の権利利益を保護するため、法に基づき、次のとおり覚書を締結する。

（個人情報保護の基本原則）

第1条 受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約に基づく業務を実施するに当たり、個人の権利利益を侵害することのないよう、保有個人情報を適正に取り扱わなければならない。

（秘密の保持）

第2条 受注者は、この契約に基づく業務に関して知り得た保有個人情報をみだりに他人に知らせ、又は契約の目的以外の目的に使用してはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

（責任者の指定）

第3条 受注者は、保有個人情報を適切に管理するため、個人情報受託管理責任者（以下「責任者」という。）を置く。

2 責任者は次に掲げる者とする。

職 名	氏 名
-----	-----

3 責任者は、保有個人情報が適正に取り扱われるよう受注者の指揮監督を受けてこの契約による業務に従事している者（以下「業務従事者」という。）を指揮監督しなければならない。

（業務従事者への周知）

第4条 受注者は、直接的であるか間接的であるかを問わず、業務従事者に対して、在職中及び退職後においてもこの契約に基づく業務に関して知り得た保有個人情報をみだりに他人に知らせ、又は契約の目的以外の目的に使用してはならないことなど、保有個人情報の保護の徹底について周知しなければならない。

（適正な安全管理）

第5条 受注者は、この契約に基づく業務に係る保有個人情報の漏えい、滅失、改ざん、又は損傷の防止その他の保有個人情報の適切な安全管理のために必要な措置を講じなければならない。また保有個人情報の漏えい等による被害発生リスクを低減する観点から、利用目的、業務の内容、個人情報の秘匿性等その内容などを考慮し、必要に応じ、氏名を番号に置き換える等の匿名化措置を行わなければならない。

(再委託の制限等)

第6条 受注者は、保有個人情報の取扱いの委託の全部又は一部を再委託してはならない。ただし、契約において再委託が認められており、かつ、あらかじめ次に掲げる事項を記載した書面により申請し、発注者の承認を受けた場合はこの限りではない。なお、再委託する場合にあっては、受注者は、再委託先（再委託先が委託先の子会社（会社法（平成17年法律第86号）第2条第1項第3号に規定する子会社をいう。）である場合も含む。）に対してもこの覚書の内容に相当する程度の措置を講じなければならない。

- (1) 契約の名称
- (2) 再委託先名（住所、商号又は名称及び代表者職氏名）
- (3) 再委託する理由
- (4) 再委託契約の内容（契約年月日、履行場所及び委託期間）
- (5) 再委託して処理する内容
- (6) 再委託先が取り扱う個人情報

2 前項の書面には、受注者と再委託先との間でこの覚書に準じて締結する予定の個人情報の取扱委託に関する覚書の案を添付しなければならない。

(収集の制限)

第7条 受注者は、この契約に基づく業務に係る個人情報を収集するときは、当該業務の目的を達成するために必要な範囲で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

(利用及び提供の制限)

第8条 受注者は、発注者の指示又は承諾がある場合を除き、この契約に基づく業務に関して知り得た保有個人情報を当該契約の目的以外の目的のために利用し、又は第三者に提供してはならない。

(複写、複製の禁止)

第9条 受注者は、発注者の指示又は承諾がある場合を除き、この契約に基づく業務に関して知り得た保有個人情報を複写し、又は複製してはならない。

(安全管理の確認)

第10条 発注者は、受注者が取り扱う保有個人情報の安全管理措置が適切に行われていることを適宜確認することとする。また、発注者は必要と認めたとき、受注者に対し保有個人情報の取扱状況について報告若しくは資料の提出を求め、又は受注者が保有個人情報を取り扱う場所で、当該取扱状況を確認することができる。

2 発注者は、受注者における管理体制及び実施体制や個人情報の管理の状況について、少なくとも年1回以上、原則として実地検査により確認するものとする。

(業務従事者の監督)

第11条 受注者は、業務従事者に対し、保有個人情報に関する秘密保持義務を負わせるとともに、その目的外利用を禁止するものとする。

2 受注者は、本件業務の遂行上、実際に保有個人情報を取り扱う業務従事者の範囲を限定するもの

とし、当該業務従事者に対して必要かつ適切な監督を行わなければならない。

- 3 受注者は、業務従事者が退職する場合、当該業務従事者に対し、退職後の秘密保持義務に関する誓約書の提出を求めるなど、在任若しくは在職中に知り得た全ての保有個人情報の返還又は破棄を義務づけるために合理的に必要と認められる措置を講ずるものとする。

(改善の指示)

第12条 発注者は、報告、資料の提出又は実地検査の結果、受注者において保有個人情報の安全管理措置が十分に講じられていないと認めたときは、受注者に対し、その理由を書面により通知かつ説明した上で、安全管理措置の改善を要請することができるものとする。

- 2 受注者は、前項の要請を受けたときは、安全管理措置の改善について発注者と協議を行わなければならない。

(記録の搬送等)

第13条 受注者及び受注者の従事者は、保有個人情報を搬送等するときは、保有個人情報の飛散等の流出事故を想定したうえで、安全、確実に行わなければならない。

(廃棄等)

第14条 受注者は、この契約に基づく業務に関して知り得た保有個人情報について、発注者から指示があったとき又は保有する必要がなくなったときは、確実かつ速やかに発注者への返却、廃棄又は消去（以下「廃棄等」という。）しなければならない。なお、受注者がこの契約に基づく業務に関して知り得た保有個人情報の廃棄等を行う場合には、発注者の立会いのもとに返却、廃棄又は消去しなければならない。

(事故発生時における報告)

第15条 受注者は、この契約に基づく保有個人情報に関する事項に違反する事態が生じ、又はおそれがある場合は、直ちに発注者へ報告し、発注者の指示に従うものとする。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

第16条 発注者は、受注者がこの覚書の記載事項に違反した場合は、契約を解除することができるとともに必要な措置を求めることができる。

(罰則等の周知)

第17条 受注者は、保有個人情報を不正に取り扱った場合の罰則適用（法第176条及び第180条）について、受注者の従事者に周知し、徹底させなければならない。

(その他)

第18条 この覚書について疑義が生じたときは、発注者、受注者協議のうえ、解決するものとする。

【参考法律】個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）【抜粋】

(定義)

第 2 条（抜粋） この法律において「個人情報」とは、生存する個人に関する情報であつて、次の各号のいずれかに該当するものをいう。

(1) 当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等（文書、図画若しくは電磁的記録（電磁的方式（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式をいう。次項第 2 号において同じ。）で作られる記録をいう。以下同じ。）に記載され、若しくは記録され、又は音声、動作その他の方法を用いて表された一切の事項（個人識別符号を除く。）をいう。以下同じ。）により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）

(2) 個人識別符号が含まれるもの

2 この法律において「個人識別符号」とは、次の各号のいずれかに該当する文字、番号、記号その他の符号のうち、政令で定めるものをいう。

(1) 特定の個人の身体の一部の特徴を電子計算機の用に供するために変換した文字、番号、記号その他の符号であつて、当該特定の個人を識別することができるもの

(2) 個人に提供される役務の利用若しくは個人に販売される商品の購入に関し割り当てられ、又は個人に発行されるカードその他の書類に記載され、若しくは電磁的方式により記録された文字、番号、記号その他の符号であつて、その利用者若しくは購入者又は発行を受ける者ごとに異なるものとなるように割り当てられ、又は記載され、若しくは記録されることにより、特定の利用者若しくは購入者又は発行を受ける者を識別することができるもの

(省略)

11 この法律において「行政機関等」とは、次に掲げる機関をいう。

(1) 行政機関

(2) 地方公共団体の機関（議会を除く。次章、第 3 章及び第 69 条第 2 項第 3 号を除き、以下同じ。）

(3) 独立行政法人等（別表第 2 に掲げる法人を除く。第 16 条第 2 項第 3 号、第 63 条、第 78 条第 1 項第 7 号イ及びロ、第 89 条第 4 項から第 6 項まで、第 119 条第 5 項から第 7 項まで並びに第 125 条第 2 項において同じ。）

(4) 地方独立行政法人（地方独立行政法人法第 21 条第 1 号に掲げる業務を主たる目的とするもの又は同条第 2 号若しくは第 3 号（チに係る部分に限る。）に掲げる業務を目的とするものを除く。第 16 条第 2 項第 4 号、第 63 条、第 78 条第 1 項第 7 号イ及びロ、第 89 条第 7 項から第 9 項まで、第 119 条第 8 項から第 10 項まで並びに第 125 条第 2 項において同じ。）

第 60 条（抜粋） この章及び第 8 章において「保有個人情報」とは、行政機関等の職員（独立行政法人等及び地方独立行政法人にあつては、その役員を含む。以下この章及び第 8 章において同じ。）が職務上作成し、又は取得した個人情報であつて、当該行政機関等の職員が組織的に利用するものとして、当該行政機関等が保有しているものをいう。ただし、行政文書（行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成 11 年法律第 42 号。以下この章において「行政機関情報公開法」という。）第 2 条第 2 項に規定する行政文書をいう。）、法人文書（独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号。以下この章において「独立行政法人等情報公開法」という。）第 2 条第 2 項に規定する法人文書（同項第 4 号に掲げるものを含む。）をいう。）又は地方公共団体等行政文書（地方公共団体の機関又は地方独立行政法人の職員が職務上作成し、又は取得した文書、図画及び電磁的記録であつて、当該地方公共団体の機関又は地方独立行政法人の職員が組織的に用

いるものとして、当該地方公共団体の機関又は地方独立行政法人が保有しているもの（行政機関情報公開法第2条第2項各号に掲げるものに相当するものとして政令で定めるものを除く。）をいう。）

（以下この章において「行政文書等」という。）に記録されているものに限る。

2 この章及び第8章において「個人情報ファイル」とは、保有個人情報を含む情報の集合物であって、次に掲げるものをいう。

(1) 一定の事務の目的を達成するために特定の保有個人情報を電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したもの

(2) 前号に掲げるもののほか、一定の事務の目的を達成するために氏名、生年月日、その他の記述等により特定の保有個人情報を容易に検索することができるように体系的に構成したもの

（省略）

（安全管理措置）

第66条 行政機関の長等は、保有個人情報の漏えい、滅失又は毀損の防止その他の保有個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じなければならない。

2 前項の規定は、次の各号に掲げる者が当該各号に定める業務を行う場合における個人情報の取扱いについて準用する。

(1) 行政機関等から個人情報の取扱いの委託を受けた者 当該委託を受けた業務

(2) 指定管理者（地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項に規定する指定管理者をいう。） 公の施設（同法第244条第1項に規定する公の施設をいう。）の管理の業務

(3) 第58条第1項各号に掲げる者 法令に基づき行う業務であって政令で定めるもの

(4) 第58条第2項各号に掲げる者 同項各号に定める業務のうち法令に基づき行う業務であって政令で定めるもの

(5) 前各号に掲げる者から当該各号に定める業務の委託（2以上の段階にわたる委託を含む。）を受けた者 当該委託を受けた業務

（従事者の義務）

第67条 個人情報の取扱いに従事する行政機関等の職員若しくは職員であった者、前条第2項各号に定める業務に従事している者若しくは従事していた者又は行政機関等において個人情報の取扱いに従事している派遣労働者（労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律（昭和60年法律第88号）第2条第2号に規定する派遣労働者をいう。以下この章及び第176条において同じ。）若しくは従事していた派遣労働者は、その業務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。

第8章 罰則

第176条 行政機関等の職員若しくは職員であった者、第66条第2項各号に定める業務若しくは第73条第5項若しくは第121条第3項の委託を受けた業務に従事している者若しくは従事していた者又は行政機関等において個人情報、仮名加工情報若しくは匿名加工情報の取扱いに従事している派遣労働者若しくは従事していた派遣労働者が、正当な理由がないのに、個人の秘密に属する事項が記録された第60条第2項第1号に係る個人情報ファイル（その全部又は一部を複製し、又は加工したものを含む。）を提供したときは、2年以下の拘禁刑又は100万円以下の罰金に処する。

第180条 第176条に規定する者が、その業務に関して知り得た保有個人情報を自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で提供し、又は盗用したときは、1年以下の拘禁刑又は50万円以下の罰金に処する。